

法華コモンズ仏教学林

2020(令和2)年度 後期講座 10月より開講

開設講座一覧と受講の手引き

《 開設講座 》

- 連続講座「仏教哲学再考—『八宗綱要』を手掛かりに」全4回
講師：末木文美士 ……………【10/24、12/5、1/9、2/6】 4頁
- シリーズ講座「法華仏教講座」全6回
 - 第1回 日蓮聖人と伝教大師の『依憑天台集』
講師：花野 充道 ……………【10月31日(土)】 5頁
 - 第2回 日蓮遺文の賢王と愚王
講師：高森 大乘 ……………【11月24日(火)】 5頁
 - 第3回 慶林坊日隆の『観心本尊抄』解釈について
講師：株橋 祐史 ……………【12月12日(土)】 6頁
 - 第4回 釈尊の聖地から仏教の足跡を辿る—ルンピニとティラウラコットの最新調査—
講師：村上 東俊 ……………【2021年 1月23日(土)】 7頁
 - 第5回 玄妙阿闍梨日什の伝記とその教風—ゆかりの地を訪ねて分かったこと—
講師：小松 正学 ……………【2月13日(土)】 7頁
 - 第6回 中世の日蓮教団と富士信仰
講師：西岡 芳文 ……………【3月27日(土)】 8頁
- 連続講座「歴史から考える日本仏教⑥ 日蓮と蒙古襲来の時代」全3回
講師：菊地 大樹 ……………【10/20、11/17、12/22】 4頁
- 連続講座「『法華経』『法華文句』講義」全6回
講師：菅野 博史 ……………【2020年10月~2021年3月】 10頁

※コロナ禍状況によるオンラインまた動画配信講義や延期・中止の変更も御承知の程お願いいたします

法華コモンズ仏教学林事務局

「再歴史化」の知的な拠点を創りましょう！ 理事長 西山 茂

戦前期に生きた田中智学は、日蓮仏教を近代日本に「再歴史化」（蘇生）するために、「祖道復古」と「国体開顕」および「宗門革命」（宗門の維新）の旗を掲げて日蓮主義の運動を主導し、複数の教学講習会を開いて、以後の日蓮仏教諸派の僧俗に多くの影響を与えました。

今回、私たちが11年間も続いた本化ネットワーク研究会を閉じて法華コモンズ仏教学林（門流や会派を超えた法華仏教の学び舎）を起ち上げたのも、法華仏教（日蓮仏教）を現代日本に「再歴史化」するためにほかなりません。「再歴史化」の意味を深く考えるとすれば、それは普遍的な宗教真理は特殊な歴史状況のなかに繰り返し「再歴史化」されなければ人々への説得力を失ってしまう、ということでしょう。

現代社会は智学の時代と違ってより複雑化しているだけでなく、教学や遺文の研究レベルも上がり、それだけ私たちが学ばなければならないことが多くなっています。こうしたことは、門流や会派が単独で法器養成等に取り組むことを非常に難しくしているといえます。そして、このような事態も、法華コモンズ仏教学林の誕生を促す要因となっているといえるでしょう。幸い、法華コモンズ仏教学林には、多彩で優れた講師陣が揃っています。

皆さま、この際、どうか法華コモンズ仏教学林の受講生となり、門流や会派の中垣を超えて法華仏教（日蓮仏教）の共通の智を学び、ともに仏国土づくりの聖業に邁進しようではありませんか。



皆様のご参加をお待ちしております！ 学林長 布施 義高

日蓮仏教の「再歴史化」を理念として、斯界に新たな地平を切り開いた、東洋大学名誉教授・西山茂先生主宰の本化ネットワーク研究会。また、日蓮聖人の実像や、壮大なスケールの思想の全体像を浮き彫りにすべく、日蓮門下が一丸となって編集され、平成27年全五巻の刊行完結をみた『シリーズ日蓮』（春秋社）。こうした画期的な成果を受け継ぎ、平成28年4月、西山茂先生を理事長、シリーズ日蓮刊行会会長・佐古弘文先生（同年11月御遷化）を副理事長に仰ぎ、法華コモンズ仏教学林が始動いたしました。

これから本格的に法華経や日蓮聖人を学びたい方の登竜門として、また、各教団が課題とする人材育成、次代の日蓮門下全体の隆盛へ向けての基礎作りの場として、さらには、より高みを目指す研究者の研鑽の場として、多様なニーズを満たせるよう、スタッフ一同、鋭意努力して参ります。

法華コモンズの主役は、これから参加される皆様お一人おひとりです。仏教界全体に、時代を先導し、光明を灯す力が求められている昨今、日蓮仏教（法華仏教）の立場から、世の期待に大いに応えていこうではありませんか。



法華 commons 仏教学林 スタッフ紹介

【運営スタッフ】

○理事長 西山 茂

○学林長 布施義高

○事務担当 澁澤光紀
竹内敬雅

○財務担当 竹内敬雅

○総務担当 西條義昌／谷口 智

○ブログ担当 林 明彦 ○ツイッター担当 武川清明

○動画配信 竹内敬雅／神蔵寿観／林 明彦

【教学委員】

○上杉清文

○花野充道

○菅野博史

【講座担当】

○講座（末木先生）武川清明／作田光照
波田地克利

○講座（法華仏教）西山明仁／佐古弘純
山名隆年

○講座（菊地先生）宮崎伸治／西山明仁
芹澤寛隆

○講座（菅野先生）作田光照／澁澤光紀
稲田隆広

【 講座会場 】

福聚山 常円寺 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 7-12-5 寺務所 ☎ 03 (3371) 1797

祖師堂地階ホール（または日蓮仏教研究所の一階「学室」）

※「対面講義」を前提として開催日と会場をお知らせしていますが、コロナ禍の状況により「オンライン講義」「講座動画配信」「代講」または「延期」「中止」などの変更も予測されますので、受講者の皆さまにはご了承の程よろしくお願い致します。なお、延期・中止の場合は「受講料は返却」しております。

《会場への交通》

- JR線・小田急線・京王線・丸ノ内線を利用の場合
⇒ 新宿駅西口改札より徒歩6分
- 西武新宿線を利用の場合
⇒ 西武新宿駅正面口改札より徒歩6分
- 大江戸線を利用の場合
⇒ 新宿西口駅「D5出口」より徒歩3分
- 丸ノ内線を利用の場合
⇒ 西新宿駅1番出口より徒歩4分



◎受講申込は、最後の12頁に申込説明と「申込欄」がありますので、そちらをご覧ください。

—法華コモンズ仏教学林 2020 年度 後期 連続講座 全4回—

仏教哲学再考——『八宗綱要』を手掛かりに

講師：末本文美士 先生

【講義概要】

凝然『八宗綱要』（1268）は、著者29歳の若書きであるが、750年経った今日でも、仏教教学の全般を見渡すには、本書に優るものはない。とは言え、形式的に主要概念を羅列しただけのところも多く、いわば暗記用の受験参考書のような味気ないところがある。それ故、手掛かりとしては便利であるが、それ以上の内実を求めるのは難しい。そこで、本講義では、講読という形ではなく、本書を手掛かりとしつつも、それに捉われずに、諸宗の教学を今日どのように受け止め、考えたらよいのか、応用的に問題を広げ、手探りして検討していきたい。来期以後も続く継続講義としたいが、どの程度のペースで進むかは、最初のほうの様子を見ながら考えたい。下記テキストを用いるので、聴講者には毎回多少予習しておくことを求める。初回はガイダンス。

★教科書：鎌田茂雄全訳注『八宗綱要』（講談社学術文庫）

【講師略歴】

末本文美士（すえき ゐみひこ）。1949年山梨県生まれ。東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。文学博士。現在、東京大学名誉教授、国際日本文化研究センター名誉教授、未来哲学研究所所長。専攻は仏教学、日本思想。著書に『日本仏教史 思想史としてのアプローチ』（新潮文庫）、『仏教 言葉の思想史』（岩波書店）、『日蓮入門 現世を撃つ思想』（ちくま新書）、『思想としての仏教入門』（トランスビュー）、『『碧巖録』を読む』（岩波現代文庫）、『草木成仏の思想』（サンガ）、『冥蹟の哲学1、2』（ぶねうま舎）、『日本思想史』岩波新書、他多数。

【日 時】 全4回講義、講義時間：午後4時30分～6時30分

第1回 2020年 10月24日（土）

第2回 // 12月 5日（土）

第3回 2021年 1月 9日（土）

第4回 // 2月 6日（土） ※以後2021年度前期の講座として継続する

【会 場】 新宿常円寺 祖師堂 地階ホール

※対面講義が不可の場合は、オンライン講義に切替えて同じ日時にて開催する予定です

【受講料】 1期4回分 10,000円 ※当日1回の受講料は3,000円です

—法華コモンズ仏教学林 2020年度後期 連続講座 全6回—

シリーズ講座「法華仏教講座」

【日 時】毎月1回 原則土曜日の午後4時30分～6時30分（2020年10月～2021年3月の6回）

※対面講義の際には各回とも講義終了後に講師を囲んでの懇親会（会費有り）を予定していますが、コロナ禍の状況により中止となりますので、ご承知のほどお願いいたします。

【会 場】新宿常円寺祖師堂地階ホール 新宿区西新宿 7-12-5 寺務所 ☎ 03 (3371) 1797

※対面講義が不可の場合は、オンラインまたは動画配信講義に切替えて開催する予定です

【受講料】1期6回分 12,000円 ※1回のみ受講料は3,000円です

第1回 日蓮聖人と伝教大師の『依憑天台集』 講師：花野充道 先生

【日 時】2020年 10月 31日（土）午後4時30分～6時30分

【講義概要】

天台沙門（台密沙門）として出家した日蓮聖人は、台密の淵源が宗祖の伝教大師教学にあることを充分に知っていた。知っていながら、後になると伝教大師は円密一致主義者ではなく、密教を批判した法華経最勝主義者であると強弁するようになった。その際、日蓮聖人は「伝教大師第一の秘書」として『依憑天台集』を挙げている。日蓮聖人と密教との関係について考えてみたい。

【講師略歴】

花野充道（はなの じゅうどう）：1950年京都府生まれ。早稲田大学大学院文学部東洋哲学専攻博士課程修了。博士(文学)。法華仏教研究会主宰。『法華仏教研究』編集長。法華コモンズ仏教学林教学委員。

第2回 日蓮遺文の賢王と愚王 講師：高森大乘 先生

【日 時】2020年 11月 24日（火）午後6時30分～8時30分

【講義概要】

日蓮聖人は、『立正安国論』の上奏や度々の国家諫暁という行為にも示される通り、王法と仏法の関係に対する関心を強くもっていた人物として知られる。仏法の正邪によって王法の盛衰があること、国王の賢愚によ

って国家の存亡が決することは、『立正安国論』をはじめ諸遺文に散見されるところである。では、日蓮聖人は、いかなる王を賢王とし、いかなる王を愚王とみなしていたのか。日蓮聖人が、国主・国王の在り方を論じる場合、仏典や中国・日本の史書等に基づいて過去の先例を引き、現在（鎌倉時代の当時）に照らして、その是非を論じることが多い。仏典には、仏菩薩の前生譚や、過去世・未来世の物語に至るまで、数多くの国主が登場するが、講演では、印度・西域の王朝史・王統史上実在したことが認められる国王・帝主を中心に、日蓮遺文中の記述を整理し、日蓮聖人の国主観の一端を探ってゆく。

【講師略歴】

高森大乘（たかもり だいじょう）：1966年、東京都生まれ。國學院大学卒、立正大学卒、同大学院博士後期課程満期退学。立正大学講師・准教授を経て、現在は、日蓮宗要伝寺住職、日蓮宗専任布教師、日蓮宗勸学院嗣学、東京都台東区教育委員会委員。専攻は日蓮教学、日蓮聖人の布教活動と布教法に関する研究。主著（単編）に『昭和定本日蓮聖人遺文諸本対照総覧』（山喜房仏書林）、共編著に『日蓮と日蓮宗』（学習研究社）、『法華経の基礎知識』（大法輪閣）、『法華経の事典』（東京堂出版）、『全解説日蓮聖人御遺文』（佼成出版）他。

第3回 慶林坊日隆の『観心本尊抄』解釈について 講師：株橋祐史 先生

【日 時】2020年 12月 12日（土）午後4時30分～6時30分

【講義概要】

室町期勝劣派の学匠である慶林坊日隆（1385-1464、以下隆師）は、『観心本尊抄』を「総の肝要の御書」と位置づける。即ち、宗祖の教学は本抄において極成したと見て、その要説は、本仏釈尊が末法衆生の下種のために、本門八品に久遠下種の妙法蓮華経を顕説し、これを上行菩薩に付嘱された事とするのである。このように、隆師は、本抄は本門八品の経意と上行要付の観心本尊を撰述されたものとする。これら隆師の解釈の概略を述べたいと思う。

【講師略歴】

株橋祐史（かぶはし ゆうし）：1956年生まれ。関西大学文学部哲学科卒業後、法華宗興隆学林研究科を経て、1985年より興隆学林専門学校にて教鞭を取る。おもに伝統教学の研究・啓発と『法華宗全書』など先師の著述の整理・刊行に携わる。現在、興隆学林専門学校学監、法華宗教学研究所長。論文に「日承聖人著『広経抄』について-書誌をめぐる問題点-」、共著書に『法華宗の教えを語る』などがある。

第4回

釈尊の聖地から仏教の足跡を辿るールンビニとティラウラコットの最新調査ー

講師：村上東俊 先生

【日 時】2021年 1月 23日（土）午後4時30分～6時30分

【講義概要】

ネパールに存在する釈尊生誕の地ルンビニと釈尊出家の地カピラ城の有力候補であるティラウラコットの発掘調査が、2010年からユネスコの主導により開始されている。本プロジェクトの考古学調査部門は、ダラム大学（英）のロビン・カニンガム教授とネパール政府考古局前局長コシュ・アチャールヤ氏を中心に、ネパール政府考古局、ルンビニ開発トラスト、トリブバン大学、スターリング大学（英）、ナショナルジオグラフィック（米）、法華宗（陣門流）などの研究機関や仏教教団が協力している。

19世紀末からはじまったルンビニとティラウラコットの調査で過去最大規模となる本プロジェクトは、考古学的な見地から釈尊やカピラ城に関する新たな発見や視点を提示している。本講座では、この二つの仏教遺跡における調査史を紐解きながら、今回のユネスコによる発掘の概要、また、カピラ城を巡るネパールとインド（ピブラハワ遺跡）との論争、ティラウラコットの遺跡がカピラ城である可能性などを仏教学（文献学）的な視点とその課題も含めて考察していきたいと思う。

【講師略歴】

村上東俊（むらかみ とうしゅん）：1971年東京都生まれ。立正大学大学院文学研究科仏教学専攻後期博士課程単位取得退学。法華宗（陣門流）学林教授、立正大学法華経文化研究所特別所員、法華仏教研究編集委員、日本印度学仏教学会評議員、東京・立正院住職、ネパール・リッショウインシャンティビハール住職。主な論考に「燃灯仏に見られる焰肩と『六度集経』について」、「ティラウラコットにおける近年の考古学調査について」、「現代ネパールを知るための60章」（共著・明石書店）など。

第5回

玄妙阿闍梨日什の伝記とその教風ーゆかりの地を訪ねて分かったことー

講師：小松正学 先生

【日 時】2021年 2月 13日（土）午後4時30分～6時30分

【講義概要】

顕本法華宗の開祖、玄妙阿闍梨日什（1314—1392・以下什祖）が誕生してから、平成25年が700年に当たった。その頃、宗門の季刊誌『心の宝』編集に携わっていた講師は、現地調査のために什祖のゆかりの地を訪ね、現地調査やその地の史料などから伝記と相違があることを知った。その体験と、什祖以後における教団の教風について幾つか紹介してみたい。

【講師略歴】

小松正学（こまつ しょうがく）：1967年富山県生まれ。現在、顕本法華宗・教務部長、顕本法華宗妙塔学林・教授、千葉県酒々井町・経胤寺住職。『心の宝』平成25年春号～平成30年春号に「ゆかりの地をたずねて」を連載。また「本迹勝劣之事（解説）」、「絵伝物語—会津生れの日什さま」など。

第6回 中世の日蓮教団と富士信仰

講師：西岡芳文 先生

【日 時】2021年 3月 27日（土）午後4時30分～6時30分

【講義概要】

三国一の名山と称された富士山は、先史時代から現代にいたるまで、この列島に住む人々によって畏敬される信仰の対象でありつづけている。また中世においては富士山麓は東西日本の政治権力のせめぎ合う歴史的な舞台となり、さまざまな事件の現場ともなった。そのような歴史的背景の中で形成された富士信仰は、神祇・修験のみならずあらゆる仏教宗派において象徴的な意味づけがなされ、重要な役割を付与されてきた。ことに日蓮法華宗では、六老僧の一人・日興が富士山南麓を拠点にして活発な活動を続け、富士門流と呼ばれる大きな教団を築き上げた。しかし自他ともに富士門流という名称で呼ばれるにもかかわらず、この門流における富士山の位置づけは明確ではない。富士山が世界遺産に登録される過程で、富士五山の存在が考慮された形跡はないのも、そうした視点・研究史がなかったことが一因であろう。日蓮宗富士門流を富士信仰の歴史の中でどのように位置づければ良いのか、そのへんを試論的に考えてみたい。

【講師略歴】

西岡芳文（にしおか よしふみ）：1957年東京に生まれ、慶應義塾大学・大学院で日本中世史を専攻し、1987年神奈川県立金沢文庫学芸員となり、学芸課長をへて2018年退職。上智大学特任教授に就任（学芸員課程担当）。金沢文庫において担当した展示（図録）は『龍華寺～武州金沢の秘められた古刹』（2000）、『蒙古襲来と鎌倉仏教』（2001）、『寺社縁起と神仏霊験譚』（2003）、『よみがえる鎌倉の学問～称名寺聖教重文指定記念』（2006）、『陰陽道×密教』（2007）、『称名寺の庭園と伽藍』（2009）、『もうひとつの鎌倉文化』（2011）、『横浜の元祖 宝生寺』（2017）など。主要論文は「日本中世の〈情報〉と〈知識〉」（『歴史学研究』716号、1998）、「六壬式占と軒廊御卜」（今谷明編『王権と神祇』思文閣出版、2002）、「阿佐布門徒の輪郭」（『年報三田中世史研究』10号、2003）、「富士山をめぐる中世の信仰」（『興風』22号、2010）、「初期真宗門流の展開」（『佛光寺の歴史と文化』法蔵館、2011）、「円覚寺の創建と密教の祈祷」（『アジア遊学・古代中世日本の内なる「禪」』勉誠出版、2011）など。

—法華コモンズ仏教学林 2020 年度 後期 連続講座—

日蓮と蒙古襲来の時代

講師：菊地 大樹 先生

【講義概要】

この講座は、歴史学の立場から日本仏教のさまざまな側面を継続的に考えてゆくことを目指します。これは言い換えれば、教理文献に残された思想を、それが著された時代の文脈の中で立体的にとらえなおす営みに他なりません。しかもひとつの時代は系譜となって、前後に長く連なってもいます。そこで日蓮の生きた鎌倉時代をつねにどこかで射程に入れつつも、ときには原始古代にまでさかのぼり、また私たちの生きる近現代にも立ち戻って進んでいきたいと思えます。

2020 年度後期は、13 世紀後半の蒙古襲来を中心に取り上げたいと思えます。元寇とも言われたこの事件が、中世社会を揺るがしたことはよく知られています。日本では戦時体制のなかで、政治のみならず経済・交通・流通など社会構造も大きく変動していきました。やがて鎌倉幕府の崩壊、建武の新政、南北朝内乱とダイナミックな展開が続いていきます。もちろん日本列島のみならず、モンゴル帝国のユーラシア大陸支配に連動して、東アジア世界全体が大きく再編されていきました。ちょうどこの時期、東国では日蓮が宗教活動を展開しています。彼の教学が蒙古襲来を抜きに理解できないことは、言うまでもありません。しかし、その本質を深く理解するためには一回射程を広く取って、13 世紀の日本や東アジアの一般的情勢をしっかりと理解しておく必要があります。そこから、史実と伝説の入り乱れた「日蓮と蒙古襲来」の実態を一度整理し、あらためて伝説の意味についても考えてみたいと思えます。

【講師略歴】

菊地大樹（きくち ひろき）：1968 年東京都生まれ。東京大学大学院修士課程修了。博士（文学）。現在、東京大学史料編纂所准教授。著書に『鎌倉仏教への道』（講談社、2011 年）、『日本人と山の宗教』（講談社、2020 年）他。論文に「日蓮『念仏者追放宣状事』と鎌倉時代の専修念仏」（『興風』30、2018 年）、「再考：持経者から日蓮へ」（『花野充道博士古稀記念論集』山喜房仏書林、2020 年）他。

【日 時】 全 3 回講義、講義時間：午後 6 時 30 分～8 時 30 分

第 1 講 10 月 20 日（火） 13 世紀の日本列島

第 2 講 11 月 17 日（火） 蒙古襲来と日蓮

第 3 講 12 月 22 日（火） 変革と内乱の時代

【会 場】 新宿常円寺 祖師堂 地階ホール

※対面講義が不可の場合は、オンライン講義に切替えて同じ日時にて開催する予定です

【受講料】 1 期分 8,000 円（全 3 回の講義） ※当日 1 回の受講料は 3,000 円です

—法華コモンズ仏教学林 2020 年度 後期 連続講座—

「『法華経』『法華文句』講義」

講師 菅野 博史 先生

【講義概要】

今年度の後期も、『法華経』、『法華文句』（巻第三上）の講義を継続します。『法華文句』は『法華経』の随文釈義の注釈書ですので、「注釈書読みの經典知らず」にならないためには、『法華文句』を読むときには、常に『法華経』の本文を読まなければなりません。現在、『法華文句』の本文を地道に読む機会はほとんどないと思われるので、この講義では、『法華文句』の本文をすべて読んでいます。もちろん同時に『法華経』も読んでいきます。受講生のご希望がある限り、地道に続けていきたいと思っています。なお、福神研究所主催の『摩訶止観』の講義はすでに六年目に入り、巻第五下（十乗観法の破法遍の部分）が終わろうとしているところです。この講義と同日、同所で開催しています（時間は 15 時～17 時半）。

★教科書 『法華文句』Ⅰ～Ⅳ（第三文明社、各冊 2,530 円）→割引価格各冊 2,000 円

★『法華経』はプリントを配布します。

【講師略歴】

菅野博史(かんの ひろし)。1952 年福島県生まれ。1976 年東京大学文学部印度哲学印度文学科卒業。1984 年東京大学大学院博士課程（印度哲学）単位取得退学。1994 年文学博士（東京大学）。現在創価大学文学部教授、（公財）東洋哲学研究所副所長。専門は、仏教学、中国仏教思想史。著書に『一念三千とは何か—摩訶止観正修止観章一』（第三文明社）、『法華経入門』（岩波書店）、『中国法華思想の研究』（春秋社）、『南北朝・隋代の中国仏教思想研究』『法華経—永遠の菩薩道—』（大蔵出版）、他。訳書に『法華文句・ⅠⅡⅢⅣ』（第三文明社）、『現代語訳 法華玄義』（上）（下）（東洋哲学研究所）。

【講義日】 ※原則第 4 月曜日（11 月、12 月、3 月は別） 午後 6 時 30 分～8 時 30 分

第 1 回	10 月 26 日	第 4 回	2021 年	1 月 25 日
第 2 回	11 月 30 日	第 5 回	〃	2 月 22 日
第 3 回	12 月 21 日	第 6 回	〃	3 月 29 日

【会 場】 新宿常円寺 祖師堂 地階ホール

※対面講義が不可の場合は、オンラインまたは動画配信講義に切替えて開催する予定です

【受講料】 1 期 6 回分 12,000 円 ※当日 1 日の受講料は 3,000 円です

法華コモンズ講座 動画配信・映像(DVD)シリーズ 販売中!

◎「『吾妻鏡』と鎌倉仏教」 菊地大樹先生 全6回

【講師】菊地大樹(きくちひろき): 東京大学大学院修士課程修了。博士(文学)。現在、東京大学史料編纂所准教授。専門は日本中世史、仏教史。著書に『鎌倉仏教への道』(講談社)、『中世仏教の原形と展開』(吉川弘文館)など。

第1講 『吾妻鏡』と鎌倉仏教 / 第2講 源頼朝の時代と法華信仰 / 第3講 鎌倉武士と仏教
第4講 都市鎌倉と天台宗 / 第5講 都市鎌倉と日蓮 / 第6講 京と鎌倉、そして鎌倉仏教

◎「初期仏教研究」 池上要靖先生 全6回

【講師】池上要靖(いけがみようせい): 立正大学大学院修士課程修了。身延山大学仏教学部長・教授。立正大学文学部非常勤講師。専門は、初期・東南アジア仏教、仏教福祉学。論文に「kulaputri が意味するもの」など多数。

第1回「初期仏教経典の理解」 第2回「史料価値としての初期経典」
第3回「経典成立の過程—記憶から記録へ—」 第4回「仏滅年代の記述」
第5回「もう一つの仏像建立史」 第6回「初期仏教経典は仏説か？」

◎「歴史から考える日本仏教① 鎌倉時代を射程にいれて」

菊地先生 全6回

第1講 山の宗教の原像 / 第2講 古代仏教と山林修行
第3講 中世成立期における山林修行の変質—日蓮の時代へ— / 第4講 中世王権と山林修行
第5講 中世における山林修行の諸相 / 第6講 里山寺院の定着と近世近代の社会

【A版】全6回講義の動画ファイルとレジュメPDF **ダウンロード販売:価格 12,000円**(消費税込)
※高画質の動画のため、高速インターネット環境をお持ちの方に適しています。

【B版】全6回講義のDVD6枚組とレジュメ印刷物 **郵送(レターパック)販売:価格 12,500円**(消費税込)
※インターネット環境をお持ちでない方、家庭用DVDプレーヤーによる再生の方に。

★下記の動画配信となった講義も「受講料と同額」で配信しています。

◎「これからの天皇制」第六回・片山杜秀先生講義(3時間15分).....3,000円

◎「承久の乱から考える鎌倉仏教」全4回・菊地大樹先生講義(各回2時間)・・4回分 10,000円

【ご購入方法】

A、住所・氏名・電話・購入の版をご記入の上ファックス送付⇒ FAX 番号 042-627-7227

B、ブログの講座申し込みフォームによる申し込み⇒ <https://hokke-commons.jp>

受講の申込について

聴講希望の方は、この頁のコピーまたは別紙(チラシ)申込欄の各項目に御記入頂きまして、下記のファックス番号にご送信ください。申込用紙が届きましたら、「受講手続き書類」をお送りいたしますので、その手続きに従って1期6回分の「受講料」をお振込下さい。お振込を確認しましたら、「受講証」・「受講の手引き」そして領収書をお送りします。なお、メールで申込希望の方は、同様の内容をお書きの上、下記アドレスに送信してお申し込み下さい。なお、受講者が極端に少ない場合は開講を見合わせますので、ご了承下さい。

メールアドレス ⇒ hokkecommons@gmail.com
FAX 番号⇒ 042-627-7227 / ブログ⇒ <https://hokke-commons.jp>

..... 申込欄

《受講希望の講座の□をチェックして下さい(いくつでも結構です)》

- 連続講座「仏教哲学再考一『八宗綱要』を手掛かりに」 講師：末木文美士
- 連続講座「法華仏教講座」(全6回)
※個別の受講の場合 1回 2回 3回 4回 5回 6回
- 「歴史から考える日本仏教⑥ 日蓮と蒙古襲来の時代」 講師：菊地 大樹
- 「『法華経』『法華文句』講義」 講師：菅野 博史

上記、チェックを入れた講座の受講申込みをいたします

○氏名 _____ 男・女 _____ 才

○住所 〒 _____

○電話 _____ Fax (mail) _____

2020(令和2)年 8月1日 発行 法華コモンズ仏教学林 事務局

192-0051 八王子市元本郷町1-1-9 善龍寺内 FAX 042-627-7227